

4学年

【主題名】
**きまりが
生まれたわけ**
【教材名】
どっちがいいか
(光文書院)

【主題を通して
考えたいこと】

- 規則の尊重
- 思いやり、親切



●きまりが、「誰のため」「何のため」にあるかを考えさせ、みんなの気持ちのよくなるにつなげるきまりの意義について理解させる。また、きまりに対して、どのように向き合っていけばよいかを考えさせる。

相談者・相談内容:思考ツールの効果的な活用



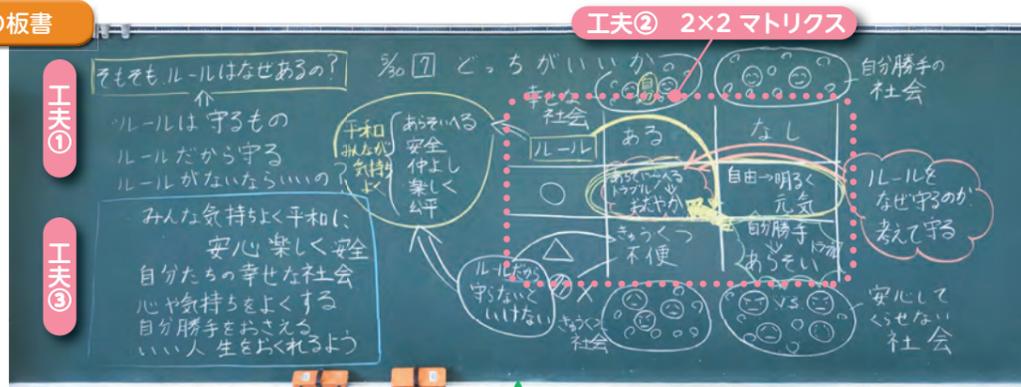
神奈川県伊勢原市立伊勢原小学校
星崎 啓介 先生

教材の中の「ルールがない村」と「ルールがある村」のメリット・デメリットを2×2のマトリクス(表)で比較し、きまりの意義を子どもたちに考えさせることをねらいました。しかし、「思考ツールをただ使っただけでは、道徳の授業にならないのではなか」という疑問も生まれました。思考ツールをどのように活用していけば質の高い道徳の授業につながるのか、アドバイスをお願いします。

本時の展開

学習活動	手立て
○「そもそもルールは何のためにあるのか」という学習テーマを設定する。	●「廊下を走らず歩く」というルールが無ければ走ってよいのか」と問う。
○教材を読み、「ルールがない村」と「ルールがある村」のどちらがぐらしやすいか考える。	●2×2マトリクスを利用することで情報を整理し、きまりの意義を考えさせる。
○きまりの生まれたわけについてまとめ、学習を振り返る。	●導入と同じ問いかけをし、学習テーマに対する考えの深まりを自覚させる。
	●身近なきまりについて調べることを促し、次時の規則の尊重の学習への問題意識につなげる。

本時の板書



授業で工夫した点

- ①導入で、子どもの「きまりに対する考え」を出させ、それに問い返すことで問題意識を喚起した。
- ②思考ツールで情報を整理するだけでなく、子どもの発言を問い返し、その道徳的な意味や教材に書かれていない世界も板書し、深く考えさせることをねらった。
- ③終末での子どもの考えを板書し、導入からの思考の深まりを可視化した。

ここはナイス！
板書の工夫

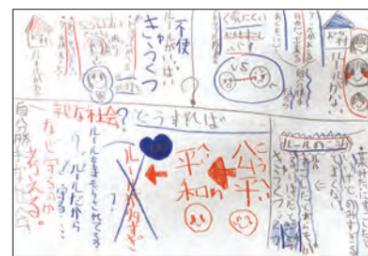


板書は1時間の「学びの足跡」です。導入の「ルールに対する考え」と最後の「ルールに対する考え」がきちんと対比的に書かれているので、学びの深まりが分かりやすいですね。また、思考ツール(マトリクス)を活用することで、二つの村の長所と短所が整理されています。「顔マーク」を用いてそれぞれの社会の様子を表現したことで違いが視覚的に分かりやすくなりました。二つの村の対比を通して、「何のためのルールだったのか」「ルールは何のためにあるのか」を見つめ直すことができています。

授業の内容 (T:教師 C:児童)

- T:ルールで決められているからルールを守る。この考えに賛成ですか。反対ですか。
C:(多くの児童が賛成に挙手)
T:では、「廊下は走らずに歩く」というルールが無くなったら、みんなは廊下を走るのですか。
C:走らないと思う。
T:ルールが無くてもできるのなら、そもそもなぜルールはあるのでしょうか。「ルールがない村」と「ルールがある村」は、どちらがぐらしやすいと思いますか。
C:ルールがある村です。争いやトラブルが減って、おだやかにらせているから。
C:でも、窮屈になってしまっているよ。
C:ルールがない村の方がいいよ。自由があるから。
T:表を見て。整理するとこんな感じです。それぞれの世界を絵で描いてみましょう。(児童とやりとりをしながら絵を描く)
T:あれ。ルールがない村とルールがある村、両方笑顔だけど、この笑顔は同じですか。
C:ルールがない村の笑顔は自由にできている笑顔だけど、何でもかんでも自由になっている。

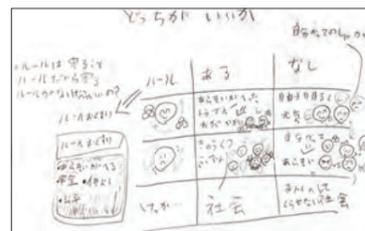
子どもの反応



【A児のワークシート】
自分なりに工夫してノートに書き込み、考えを深めていることが分かる。

【B児のワークシート】

板書と連動し、友だちの意見を取り入れて考えをまとめている。



【C児の振り返り】

前に学習した「セトモノの詩」を今日の授業で思い出しました。ルールが無かったときはセトモノとセトモノがぶつかったときと一緒に、ルールお薬を使って平和でみんながいい気分で作らせるようにするには、セトモノとセトモノではない、やわらかいものがぶつかったときだと思いました。

- C:ということは、自分勝手の笑顔だね。
C:ルールがある村の方は、お互いが気持ちよくできている笑顔だと思う。
T:では、ルールはなぜ生まれたのだと思いますか。
C:争いがある、それをやめさせるため。
C:ルールはお薬みたいなものだと思う。人間の社会が上手いかなくなって、それに合わせて、それを治すために作ったのだと思う。
T:なるほど。でも、お薬なのに窮屈なのはなぜですか。
C:ルールが多いのだと思う。
T:ルールの量だけの問題でしょうか。
C:やらされている気持ちがあるのだと思う。
T:窮屈ではないルールの守り方はありますか。
C:今みんなで話し合った「お薬」みたいに、ルールがある理由を考えて守ればいい。
C:自分から守ろうとできると思う。
T:今なら、「そもそもルールは何のためにあるのですか」と聞かれたら、何と答えますか。
C:(ワークシートに記入後、発言させる。)
T:みんなは、どの世界にぐらしたいですか。あなたの身の回りのルールも調べてみましょう。

わたしならこうする！
ねらいの立て方と問いの工夫



まず、思考ツールは、ねらいである「きまりの意義を考える」ために役立つものでなければ活用する必要はありません。マトリクスを活用すると二つの村で起きている「きまりがあること」の長所(○)と「課題(△)」が整理でき、どちらも元々「みんなが気持ちよく生活するためのもの」だったことに気が付きます。そこで「では、なぜどちらも気持ちよく過ごすことができなかったのか」と問い返すことによって、きまりの意義について、より深く考えられます。

「ルールは薬」の発言はとても興味深いです。さらに、「薬はいつまでも必要か」「必要がないときはどんな状態か」「どうしたら必要でなくなるのか」等の問い返しもよいでしょう。

ランクアップアドバイス
広げる活動について



最後の「みんなはどの世界にぐらしたいですか」はよいですね。「薬がいらない社会」で「お互いがお互いを思いやれる社会」等が出てくるでしょう。その後の「あなたの身の周りのルールを調べてみましょう」は導入段階の発問と捉えられかねません。

ここでは、「身の回りのルールが今日の学習とつながるか考えてみましょう」が発展の問いとしてよいでしょう。その問いによってC児のように、「今日の学習」と「日常生活」をつなげて考えることができるでしょう。



道徳授業 Q&A

Q1 [3学年]

【内容項目】
家族愛、家庭生活の充実
【教材名】
清作のおてつだい
(光文書院)



相談者
神奈川県横須賀市立
神明小学校
安川 詩織 先生

内容：理解を深める手立て

親へのお手伝いと、他の人に対する行動について考えさせることで、人のために活躍する我が子の姿も、子どもの成長を願う親にとって喜びであることを考えさせようとなりました。理解を促すために顔マークや矢印で視覚化して見ましたが、我が子の幸せが親の幸せとなるという理解が不十分でした。有効な手立てを教えてください。



A1
ポイント
アドバイス

ここはナイス!

「家族を思う心」から「他の人を思う心」へと発展していく姿だけでなく、それを通して「子どもの成長が親の喜び」であることに気づかせたいという指導観がすばらしいですね。
そのために板書の構成を工夫し、顔マークと矢印で親(母)と子(清作)の気持ちを対比させ、視覚化する工夫をしているのがいいですね。

ランクアップアドバイス

「子どもの幸せが親の幸せ」を理解させるために、まず「やけどをさせてしまった時の母の気持ち」や「畑仕事ができないと悩む清作を見る母の気持ち」を考えさせ、二人の心情曲線を板書してみましよう。
落ち込んだ時、清作が医者になり活躍した時、母子の心情曲線の傾向は同じですが、母の悲しみや喜びは、清作以上だったことに気づくのではないのでしょうか。

Q2 [6学年]

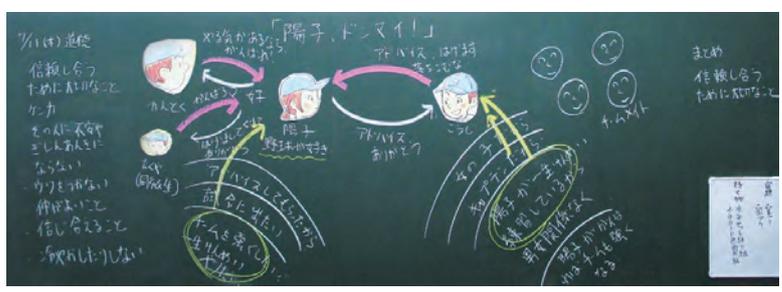
【内容項目】
友情、信頼
【教材名】
陽子、ドンマイ
(光文書院)



相談者
神奈川県横須賀市立
明浜小学校
名和田 周介 先生

内容：考える視点と展開

初めに信頼し合うために大切なことを考え、陽子のチームが信頼し合っているか考えながら教材を読みました。子どもたちは康二のよさ、そしてひたむきに頑張る陽子のよさに引き込まれていきました。考える視点として、チームとして信頼し合っていることも考えていきかけたのですが、どのように展開していったらよいでしょうか。



A2
ポイント
アドバイス

ここはナイス!

陽子と康二の言動の奥にある思いまで深めた授業であることがすばらしいです。陽子の「野球が好き」「試合に出たい」だけでなく、「チームを強くしたい」思いまで考えを深め、それに対する康二の思いも「女の子だから」「キャプテンだから」から「一生懸命練習している」「男女関係なく」へと深まっている様子が板書に表現されているのが秀逸です。

わたしならこうする!

板書にはチームメイトの顔が書かれています。「陽子の努力する姿をチームメイトはどう思っていたのか」や「三振した時、チームメイトはどう思ったのか」等を問い、チームメイトの顔に書き足すことで、康二だけでないチームメイトの思いやよさにも気づくことができたのではないのでしょうか。信頼は他のチームメイトにもあったことが見えてきます。